

2026年度

シラバス

1. 実務経験（者）について
2. 1 学年 講義、実習シラバス
3. 2 学年 講義、実習シラバス

広島歯科技工士専門学校

【実務経験のある教員とは】

令和2年4月から高等教育の就学支援新制度の施行に伴い、

シラバスに実務経験のある教員（本校に就任前の経歴を有する者、

あるいは現職）による授業科目であることを表記することになりました。

本校のシラバスには実務経験のある教員の種別を以下のように表記しています。

【実務教員の種別】

シラバスの表記	実務経験の種別	実務経験の説明
大学	大学教員	大学、短期大学において教員の勤務経験を有する者。
学校	初等中等教育の学校	教員養成課程の授業科目を担当する教員で、 初等中等教育の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）で、 教員の勤務経験を有する者。
公官庁	公官庁	公官庁の勤務経験を有する者。
民間企業	民間企業	民間企業の勤務経験を有する者。
自営	自営業	歯科医院、歯科技工所以外の自営業であった者。
病院	大学病院、総合病院	国家資格を有し、病院の歯科領域において臨床経験を有する者。
歯科医院	開業医、勤務医	国家資格を有し、歯科医院において臨床経験を有する者。
歯科技工所	歯科技工所 (自営も含む)	国家資格を有し、歯科技工所において臨床経験を有する者。

【教員の一覧表】

授業科目	講義、実習の別	担当教員名	実務経験の種別	備考
外国語（英語）	講義	山下 聡子	学校	
		木村 卓也	病院	
造形美術概論	講義	田中 聡	自営	
情報リテラシー	講義	渡邊裕美子	自営、学校	
コミュニケーション学	講義	児玉 勝司	大学	
		木村 卓也	病院	
		杉原 睦美	歯科技工所	
関係法規	講義	加来 真人	大学、病院	
		山崎 浩希	歯科技工所	
歯科技工学概論	講義	赤川 安正	大学、病院	
		松井 哲也	歯科技工所	
		平山 洋	大学	
		木村 卓也	病院	
歯の解剖学	講義	岡田 薪	歯科技工所	
	実習	杉原 睦美	歯科技工所	
		岡田 薪	歯科技工所	
顎口腔機能学	講義	赤川 安正	大学、病院	
	実習	荒谷 康德	歯科技工所	
		山崎 浩希	歯科技工所	
歯科理工学	講義	木村 卓也	病院	
	実習	木村 卓也	病院	
		杉原 睦美	歯科技工所	
		岡田 薪	歯科技工所	
有床義歯技工学	講義	赤川 安正	大学、病院	
	実習	杉原 睦美	歯科技工所	
		岡田 薪	歯科技工所	
		木村 卓也	病院	
歯冠修復技工学	講義	赤川 安正	大学、病院	
	実習	木村 卓也	病院	
		杉原 睦美	歯科技工所	
		岡田 薪	歯科技工所	
矯正歯科技工学	講義	小笠原伯宏	大学、病院	
	実習	小笠原伯宏	大学、病院	
		杉原 睦美	歯科技工所	
		岡田 薪	歯科技工所	
小児歯科技工学	講義	香西 克之	大学、病院	
	実習	香西 克之	大学、病院	
		木村 卓也	病院	
		岡田 薪	歯科技工所	
歯科技工実習	実習	荒谷 康德	歯科技工所	
		山崎 浩希	歯科技工所	

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	外国語 (英語)		学年	1 年	学期
担 当 者	山下聡子、木村卓也		単位数	2 単位	15 回 30 時間
実務経験	学校、病院				
講義目的	文法の基本を復習する。				
到達目標	ロサンゼルスを舞台に4人の若者の生活を通して、やさしい英語を学ぶ。				
	歯の名前、構造の英語名称を覚える。				
	クラウンの製作過程、義歯の制作過程の英語表現を覚える。				
指導上の留意点	CDを用いて、ネイティブの英語を聴く機会を増やす。				
評価方法	授業態度、小テスト、学期末試験				
	何らかの事情で本試験を受けなかった場合の「追試験」は本試験より難易度が上がる。				
使用教材	We Love L.A.!(金星堂) プリント				
講義内容					
日付	回数	講義項目	備 考		
4月16日	1	歯科関連語句①	歯科関連の単語		
4月23日	2	歯科関連語句②	歯科関連の単語		
5月7日	3	歯科関連語句③	歯科関連の単語		
5月14日	4	歯科関連語句④	クラウン製作		
5月21日	5	歯科関連語句⑤	義歯の制作		
5月28日	6	歯科関連語句⑥	歯、口腔の組織		
6月4日	7	歯科関連英作文	英文作成		
6月11日	8	Welcome to L.A./I love fruit!	be動詞/可算名詞 / 不可算名詞		
6月18日	9	Campus life/Lunchtime	一般動詞 (現在時制) 代名詞		
6月25日	10	First date/Where's Linda?	一般動詞 (過去時制) /進行形		
7月2日	11	Andy's news	will / be going to		
7月9日	12	Shopping in Santa Monica/Moving day	助動詞/前置詞		
7月16日	13	A beautiful view/Sunday fun	現在完了/比較		
9月3日	14	Seeing stars/Buying food for a BBQ	WH疑問文/動名詞 / 不定詞		
9月10日	15	Putting on a new face/Nice surprise	接続詞/受動態		
9月29日		前期試験			

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	造形美術概論	学 年	1 年	学 期	前期
担 当 者	田中 聡	単位数	1 単位	8 回	1 6 時間
実務経験	自営				
講義目的 到達目標	色彩と形に対する理解を深め、歯科技工と造形美術の関係性に気づき、美的感覚を磨く意識を高める。 歯科技工に必要な色彩と形の理論的知識の習得と共に、感覚的理解と造形的技術の習得を目標とする。				
指導上の留意点	歯科技工の具体例を挙げつつ解説する。 学生の理解度・習熟度により重要度の高い項目は繰り返し解説し、プラス加点課題も設定する。				
評価方法	課題の完成度・技術度・芸術度・努力度に、課題の提出状況や受講態度を加味して評価する。				
使用教材	(テキスト) 歯冠色のアート (教材) プリント課題 (準備物) 鉛筆、色鉛筆、絵の具、配色カード199a・演習台紙・はさみ・糊				
使用教室	第二教室(5F)、5階実習室				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
5月	11	1	色の知覚	色と光の関係および色の三属性を解説し、 色の基本的な項目の理解を促す。
	18	2	色の表示方法	色の三属性を基に色の表示方法(表色系)を解説する。
	25	3	色の知覚的効果 照明光源	色の知覚的効果を解説する。 歯冠を好ましく見るための照明の知識を解説する。
6月	1	4	混色(理論及び演習) (色相環/グレイスケール)	混色の基本を解説する。色の三属性の感覚的理解と、 色再現の技術的習得のため、絵の具を使い演習を行う。
	8	5	デッサン1(演習)	基本的な形態のデッサンを行い、立体的表現についての 理解を促す。
	15	6	デッサン2(演習)	右上顎中切歯(石膏)のデッサンを通し、観察の大切さ や立体的表現についての理解を促す。
	22	7	歯冠彩色スケッチ①(演習)	歯冠の色と形をスケッチすることで、観察の大切さ や人それぞれの個性があることの理解を促す。
	29	8	歯冠彩色スケッチ②(演習)	歯冠の色と形をスケッチすることで、観察の大切さ や人それぞれの個性があることの理解を促す。

シラバス(講義計画)

2026 年度

学 科 目	情報リテラシー	学 年	1 年	学 期	前期
担 当 者	渡邊 裕美子	単位数	1 単位	8 回	1 6 時間
実務経験	自営・学校				
講義目的	PCとインターネットを活用したレポート作成や円滑なコミュニケーションができる基本的な知識と技術を身に付ける				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC、ネットワークを安全に活用する知識と技術を身に付けている ・ Wordの基本的な操作ができる ・ Excelを使って簡単な表とグラフを作成できる 				
指導上の留意点	実践を中心に指導する USBメモリーを持参すること				
評価方法	小課題50%、最終レポート50%で評価する				
使用教材	随時テキストを配布する				
使用教室	情報実習室（山陽女学園中学校・高等学校内）				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
5	7	1	パソコンの基本とWordの操作1	
			パソコンの構成とキーボード/Wordの基本操作	
	14	2	Wordの操作2	
			Wordの基本操作/定型文書の作成	
	21	3	Wordの操作3	
			視覚的な情報伝達（画像を使ったチラシの作成）	
	28	4	Excelの操作1	
Excelの基本操作と表作成のための工夫				
5	4	5	Excelの操作2	
			関数の利用・グラフの作成	
	11	6	Excelの操作3	
			データの並び替えと抽出	
	18	7	インターネットの基礎	
インターネットの活用方法/最終レポートに向け				
7	2	8	まとめと最終レポート	

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	コミュニケーション学	学 年	1 年	学 期	前・後期
担 当 者	児玉 勝司 木村卓也 杉原睦美	単位数	1単位	8回	16時間
実務経験	大学 病院 歯科技工所				
講義目的 到達目標	<p>目的：人は他者との関わりなしでは生きていけません。自分の発信したメッセージが相手に「伝わる」ために、相手のメッセージを円滑に「受け取る」ために必要な能力について学びます。</p> <p>目標：①他者に伝わる表現能力を磨くことができる ②他者が伝えたいことを円滑に受け止める能力を身に付けることができる。</p>				
指導上の 留意点	講義内で声を出すなどの実演があります。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、ワークシートに記入してもらい提出。授業への取り組み方を評価 ・ 授業への参加状況、参加する積極性を評価 				
使用教材	テキストは特にありません。毎回ワークシートを配布します。				
使用教室	第二教室（5F）				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
4月	8	1	自己紹介	専任教員担当
7月	22	2	技術を学ぶためのコミュニケーション	専任教員担当
10月	7	3	詳細をより正確に伝える方法	専任教員担当
	14	4	日常生活におけるコミュニケーション	専任教員担当
	23	5	コミュニケーション能力は磨くことができるのか	
	30	6	相手に「伝わる」チカラ～話し方と言葉～	
11月	6	7	相手を「受け止める」チカラ～聞く力～	
	13	8	実社会でのコミュニケーション～敬語 ・ビジネスマナー～	

シラバス(講義計画)

2026 年度

学 科 目	関係法規	学年	2 年	学期	前期
担 当 者	加来 真人 山崎 浩希	単位数	1単位	8回	16時間
実務経験	大学・病院 歯科技工所				
講義目的 到達目標	1. 歯科技工士法を理解する 2. 歯科関連法規を理解する				
指導上の 留意点	歯科技工士をとりまく環境を理解する				
評価方法	定期試験の結果				
使用教材	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学 歯科技工士国家試験問題集				
使用教室	第一教室 (4F)				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
5月	12	1	法律の概要	法と衛生行政
	19	2	歯科技工士法	総則・免許
6月	2	3	歯科技工士試験	試験について
	9	4	歯科技工士の業務	業務について
	16	5	その他の関係法規	その他
	23	6	復習	テスト対策
9月	11	7	歯科技工士法まとめ	まとめ(担当 山崎)
	24	8	歯科技工士法まとめ	まとめ(担当 山崎)
	29		前期試験	

シラバス（講義計画）

2026年度

学 科 目	歯科技工学概論		学 年	1 年	学 期	前 期
担 当 者	赤川安正 木村卓也		単 位 数	単 位	7 回	1 4 時 間
実務経験	大学・病院 病院					
講義目的 到達目標	1. 歯科医療と歯科技工の概念を理解し、医療人としての心構えを理解する。 2. 歯と口腔の機能、疾患の概要など咀嚼に関する生物学的な知識について理解できる。 3. 他の学科に先立って、歯科医療と歯科技工の概念を会得する。					
指導上の 留意点	教本の内容を基に、必要に応じてスライドを併用して授業を行う。 歯科技工業界の沿革や今後の動向についての授業を行う。					
評価方法	出席状況、授業態度、試験の成績を総合的に評価する。					
使用教材	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」					
使用教室	5階第2教室					
講義内容						
月	日	回数	講義項目	備 考		
4月	14	1	歯科医療と歯科技工	医療と歯科医療 歯科医療の目的 歯科医療機関の役割 歯科医療機関職種 歯科技工と歯科技工学		
	23	2	歯科技工士の役割	映像授業 歯科技工士の業務 歯科技工士の倫理		
5月	18	3	顔および口腔組織の形態と機能	顔の形態と機能 口腔の形態 口腔の機能		
	28	4	歯科疾患と周囲組織の変化	歯の異常 歯列不正・咬合の異常 歯および硬組織疾患 歯髄の疾患 歯周組織疾患 顎関節症 舌および口腔軟組織疾患 顎骨および顔面の疾患 歯の喪失に伴う周囲組織の変化 歯科疾患の現状		
6月	11	5	歯科臨床と歯科技工	硬組織疾患と歯科技工 歯の欠損と歯科技工 歯周病（歯周疾患）と歯科技工 歯列不正と歯科技工 口腔外科疾患と歯科技工 顎関節症と歯科技工 スポーツ歯科と歯科技工 歯科技工のデジタル化 歯科法医学と歯科技工		
	25	6	歯科技工士として	学外研修		
9月	10	7	まとめ	試験対策		

シラバス（講義計画）

2026年度

学 科 目	歯科技工学概論		学年	1 年	学期	後期
担 当 者	松井哲也 木村卓也 平山洋		単位数	1 単位	8 回	1 6 時間
実務経験	歯科技工所 病院 大学					
講義目的 到達目標	1. 口腔の機能、疾患等と歯科技工の概要に関する知識を習得する。 2. 歯科技工業務に必要な管理と運営、作業環境に関する知識を習得する。					
指導上の 留意点	教本の内容を基に、必要に応じてスライドを併用して授業を行う。 適宜、課題を提示しレポート提出を課す。					
評価方法	期末試験の成績とレポートの成績を総合して評価する。					
使用教材	最新歯科技工士教本「歯科技工管理学」					
使用教室	5 階第 2 教室					
講義内容						
月	日	回数	講義項目	備 考		
10月	7	1	歯科臨床と歯科技工	硬組織並びに歯の欠損と歯科技工		
	14	2	歯科臨床と歯科技工	歯周疾患並びに歯列不正と歯科技工		
	21	3	歯科臨床と歯科技工	口腔外科疾患並びに顎関節症と歯科技工		
	28	4	歯科臨床と歯科技工	スポーツ歯科・歯科法医学と歯科技工		
11月	4	5	歯科臨床と歯科技工	歯科技工のデジタル化		
	11	6	歯科技工の管理と運営	入れ歯の話		
	18	7	歯科技工の管理と運営	先端歯科技工		
1月	20	8	歯科技工の管理と運営	海外での歯科技工		

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	歯の解剖学			学 年	1 年	学 期	前 期
担 当 者	岡田 薪			単 位 数	2 単 位	15 回	30 時 間
実務経験	歯科技工所						
講義目的 到達目標	歯の基礎的知識及び歯の形態的特徴を理解することを目的とし、その知識を活かして歯の鑑別が的確に行えること。また、歯科技工技術に反映できることを目標とする。						
指導上の 留意点	天然歯あるいは模型を使い、歯の特徴、歯の鑑別をより理解できるように工夫する。						
評価方法	定期試験および歯の鑑別試験の成績を加味して評価する。						
使用教材	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」、独自の資料、パワーポイント、天然歯						
使用教室	5階第2教室						
講義内容							
月	日	回数	講義項目	備 考			
4月	9	1	歯について	講義の進め方、ノギスの使い方			
	13	2	歯の概説	歯の外形、歯種、歯の名称、歯の記号			
	20	3	歯の概説	歯の方向用語、形態用語			
5月	11	4	歯の概説	歯の鑑別（歯種、上下、順位、左右）			
	18	5	歯の概説	歯の鑑別（三表徴以外の特徴）			
	25	6	歯の概説	歯の起源（DVD鑑賞：歯の再石灰化）			
6月	1	7	各歯の特徴、比較	上顎切歯、下顎切歯〔※天然歯を活用(観察)〕			
	8	8	各歯の特徴、比較	上下顎切歯、上下顎犬歯〔※天然歯 〃 〕			
	15	9	各歯の特徴、比較	上顎小臼歯〔※天然歯 〃 〕			
	22	10	各歯の特徴、比較	下顎小臼歯、上下顎小臼歯〔※天然歯 〃 〕			
	29	11	各歯の特徴、比較	上顎大臼歯〔※天然歯 〃 〕			
7月	6	12	各歯の特徴、比較	上顎大臼歯〔※天然歯 〃 〕			
	13	13	各歯の特徴、比較、乳歯の特徴	下顎大臼歯〔※天然歯 〃 〕			
9月	7	14	歯の異常形態、まとめ				
	14	15	歯の鑑別試験				
	29		定期試験				

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	歯の解剖学			学 年	1 年	学 期	後 期
担 当 者	岡田 薪			単 位 数	2 単 位	15 回	30 時 間
実務経験	歯科技工所						
講義目的 到達目標	歯列と咬合、歯の発生、歯の組織・構造、及び口腔の解剖学的・生物学的知識を習得できることを目的とし、これらの知識を理解し、歯科補綴物の製作に活かすことを目標とする。						
指導上の 留意点	様々な教材を使用し、学生が授業への参画意欲を持って望めるように工夫する。						
評価方法	定期試験の成績、レポートの提出を加味して評価する。						
使用教材	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」、独自の資料、パワーポイント、頭蓋骨模型、DVD						
使用教室	5階第2教室						
講義内容							
月	日	回数	講義項目	備 考			
10月	5	1	歯列と咬合	歯列と咬合			
	19	2	歯の発生	歯の発生から萌出まで			
	26	3	歯の組織	エナメル質			
11月	9	4	歯の組織	象牙質			
	12	5	歯の組織	セメント質			
	16	6	歯周組織	歯髄、歯根膜、歯槽骨、歯肉			
	19	7	頭蓋骨	脳頭蓋骨(後頭骨、蝶形骨、頭頂骨、側頭骨)			
	30	8	頭蓋骨	前頭骨、篩骨、鋤骨、下鼻甲介、涙骨、鼻骨)			
12月	7	9	頭蓋骨	顔面頭蓋骨(上顎骨、頬骨、口蓋骨、下顎骨、舌骨)			
	14	10	口腔周囲の筋	浅頭筋、深頭筋 (DVD鑑賞:嚥下と筋)			
	17	11	口腔周囲の筋	深頭筋、舌骨上筋、舌骨下筋			
1月	13	12	顎関節	構造、下顎の運動			
	18	13	口腔、唾液腺、舌	鼻腔、口腔			
	20	14	まとめ	試験対策プリント			
	29	15	まとめ				
2月	5		定期試験				

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	歯の解剖学実習	学年	1年	前期・後期
担 当 者	岡田 薪、杉原睦美	4単位	前期77回 154時間 後期14回 28時間	
実務経験	歯科技工所			
課 題	【前期】 歯形彫刻 1〕、3〕、4〕、4〕、5〕、6〕、6〕 および1〕 6〕 の模擬試験 【後期】 歯形彫刻 4〕、6〕、6〕 の反復			
実習目的	<p>①各歯の形態的特徴を覚え、立体的に表現できる彫刻技術を身につける。</p> <p>②彫刻技法は歯冠修復補綴物製作の基礎であるので、歯形彫刻を通して、歯種、上下、順位、左右の鑑別能力を養う。</p> <p>③器具、材料の取り扱い方や作業姿勢、手指の使い方などの歯科技工技術の基本を習得する。</p>			
到達目標	<p>① 右側上下14本の中で、特に特徴ある7本(1〕、3〕、4〕、4〕、5〕、6〕、6〕) の歯の形態を彫刻できる。</p> <p>② 前期実技試験 1〕、6〕 を時間内に彫刻できる。</p> <p>③ 後期実技試験 4〕、6〕 を時間内に彫刻できる。</p>			
指導上の留意点	<p>①初期の段階では、特に正しいナイフおよび手指の使い方を指導する。</p> <p>②スケッチ(展開図)を理解できるように指導する。</p> <p>③彫刻手順が理解できるように指導する。</p> <p>④常に作業途中の器具の使い方、手指の使い方に注意を払い、その都度指導する。(作業途中の動作に目を配る)</p>			
評価方法	課題作品の完成度・技術度を採点、課題の提出状況、および定期試験を加味して評価する。			
使用教材	<p>スケッチ見本(本校独自)、彫刻手順(本校独自)、完成前模型(本校独自)</p> <p>彫刻見本(全国歯科技工士教育協議会)</p>			
使用器具、材料	<p>①器具 ラバーボウル、石膏スパチュラ、鉛筆、ノギス、切り出しナイフ、彫刻刀(エバンス)、ワックス形成器、デザインナイフ、サンドペーパー、タオル</p> <p>②材料 普通石膏、石膏棒(15×15×100mmの角柱を形成)、サンドペーパー、モデルソープ</p>			
実習内容	<p>* 実習スケジュールは別表に示す。</p> <p>* 歯のスケッチ(上下左右14歯)は宿題とする。</p>			

歯の解剖学実習

2026 年度(前期)

月	日	曜	実習内容	コマ	時間数	
4	7	火	石膏ブロック、彫刻練習用模型作製	2	4	
	10	金	1] 彫刻開始 スケッチ説明 ●ブロック採寸方法 【デモ】唇側面の彫刻 (完成前の模型使用)	2	20	
	15	水	【デモ】舌側面の彫刻 (完成前の模型使用) 【デモ】ステップ(1)から開始、面カット、唇舌側の彫刻	2		
	17	金	【デモ】面カット～ステップ(8)(9) 【デモ】ステップ(10)(11)	2		
	22	水		2		
	24	金	1] 彫刻提出(2本)	2		
	28	火	3] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】唇側面の彫刻 (完成前の模型使用) 【デモ】舌側面の彫刻 (完成前の模型使用)	2	20	
5	8	水		2		
	12	火		1		
	14	木		1		
	15	金		2		
	19	火		1		
	22	金	3] 彫刻提出(2本)	1	20	
			4] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】咬合面の彫刻 (完成前の模型使用)	1		
	26	火	【デモ】ステップ(13)～(16)	1		
	28	木		1		
29	金		2			
6	1	月		1		
	3	水		2		
	4	木	4] 彫刻提出(2本)	2		
	8	月	4] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】咬合面の彫刻 (完成前の模型使用)	1	14	
	10	水		2		
	12	金		2		
	15	月		1		
	17	水	4] 彫刻提出(2本)	1	16	
			5] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】咬合面の彫刻 (完成前の模型使用)	1		
	19	金		2		
	22	月		1		
	24	水	●各自の平行模型の作製	2		
	26	金	5] 彫刻提出(2本)	2		
29	月	6] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】咬合面の彫刻 (完成前の模型使用)	1	18		
7	2	木		2		
	3	金		2		
	7	火		2		
	10	金	6] 彫刻提出(2本)	2		
	14	火	6] 彫刻開始 スケッチ説明 【デモ】咬合面の彫刻 (完成前の模型使用)	2	20	
	16	木		2		
	17	金		2		
	21	火		2		
23	水	6] 彫刻提出	2			
8			夏季休暇			
9	1	火	1] 彫刻 面カット～近遠心・頬舌 ●スケッチ *夏季課題の点検	2	22	
	4	金	1] 彫刻 外形～完成 6] 彫刻 面カット～近遠心・頬舌 ●スケッチ	2		
	10	木	6] 彫刻 外形～完成 *夏季課題の点検	1		
	11	金	1]、6] 模擬試験 I 修・再製	2		
	15	火	1]、6] 模擬試験 II 修・再製	2		
	18	金	1]、6] 模擬試験 III	2		
	28	月	1] 前期彫刻試験			
	29	火	6] 前期彫刻試験			
				合計	77	154

期間	実習内容
6/24～ 7/23	*各自の平行模型の作製
	*石膏ブロック作製
	① 前期試験用 4本
	② 模擬試験用 12本
	③ 夏季課題用 10本
	合計 22本

*夏季課題(提出日:9月1日)
① 752] 7321] 彫刻 (各1本)
② 1]、6] 彫刻 (各2本)

歯の解剖学実習

2026年度(後期)

月	日	曜	実 習 内 容	コマ	時間数	
10	2	金	6」 * スケッチ (描記→点検→修正) 彫刻 I	1	2	* 石膏ブロック作製(模試) 6本 11月～
	16	金	6」 彫刻 II ※次回までに〔I II〕のうち1本修正(合格)	1	2	
	23	金	6」 * スケッチ (描記→点検→修正) 彫刻 III	1	2	* コンテスト用ブロック作製 1本 11/6使用 ※石膏が違うので注意!
	30	金	6」 彫刻 IV ※次回までに〔III IV〕のうち1本修正(合格)	1	2	
11	6	金	6」 ★学生カービングコンテスト	1	2	* 広島県歯科技工士会主催
	13	金	4」 * スケッチ 模擬試験 彫刻 I ※次回までに修正(合格)	1	2	
	20	金	6」 * スケッチ 模擬試験 彫刻 I ※次回までに修正(合格)	1	2	
	24	金	4」 * スケッチ 模擬試験 彫刻 II ※次回までに修正(合格)	1	2	
12	4	金	6」 * スケッチ 模擬試験 彫刻 II ※次回までに修正(合格)	1	2	
	11	金	4」、6」 * 彫刻 I IIの修正	1	2	
	17	金	4」、6」 * 彫刻 I IIの修正	1	2	* 石膏ブロック作製 冬休み課題用2本 * 石膏ブロック作製 後期試験用 4本
1	8	金	4」、6」 模擬試験 彫刻 III	1	2	* 冬季課題 ① 4」、6」 彫刻 (各2本)
	15	金	★冬季課題、点検、修正	1	2	
	22	金	★冬季課題、点検、修正	1	2	
2	5	水	4」 後期彫刻試験			
	7	金	6」 後期彫刻試験			
			合計	14	28	

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	歯科理工学		学 年	1 年	学 期	前、後期
担 当 者	木村卓也		単位数	7単位	53回	106時間
実務経験	病院					
講義目的	《目的》歯科材料や器具・器械とそれらを使った歯科成型法について、生体全体の観点から広汎にとらえ、歯科技工の理論と技術を支える。歯科材料、器具、器械の理論を取り扱い、その臨床応用によって人類の健康と福祉に貢献する。					
到達目標	《目標》歯科材料、器具・器械の理論を学び、その物理的、化学的および生物学的性質を把握する。歯科材料、器具・器械の科学的な取り扱い技術を理解・修得する。さまざまな器具・器械を駆使し、各種材料の成型法を理解・修得する。					
指導上の留意点	各種材料、器具・器械について大まかな成型法の説明。次いで成分・性質などの詳細を説明する					
評価方法	期末試験の結果を成績とする					
使用教材	最新歯科技工士教本 歯科理工学 第2版 全国歯科技工士教育協議会編集					
使用教室	第二教室					
講義内容						
月	日	回数	講義項目	備 考		
4月	13	1	歯科技工と歯科理工学	歯科理工学の意義と目的・歯科の果たす役割、歯科成型法・歯科技工の安全と環境・歯科用装置の製作過程		
	16	2	模型材	所要性質、石膏の種類、石膏の一般的性質(硬化反応)		
	20	3	模型材	石膏の一般的性質(混水比・硬化時間)		
	23	4	模型材	石膏の一般的性質(硬化膨張)		
	7	5	模型材	石膏の一般的性質(圧縮強さ)		
5月	11	6	原型材料	歯科用ワックスの種類と用途・歯科用ワックスの組成・歯科用ワックスの性質(所要性質・軟化温度)		
	14	7	原型材料	歯科用ワックスの性質(熱膨張と収縮・フロー・内部応力と変形・)		
	18	8	物質の構造	原子間結合・材料の種類と性質(物質の状態・高分子材料・セラミックス材料・金属材料)		
	21	9	機械的性質	応力とひずみ・弾性と塑性・応力ひずみ曲線・展性と延性		
	25	10	機械的性質	弾性係数・レジリエンスと靱性・曲げ強さ・疲労限		
	28	11	機械的性質	衝撃強さ・クリープ・粘弾性・硬さ		
6月	1	12	物理的性質	熱膨張・熱伝導・光		
	4	13	化学的性質	接 着(腐食は後期)		
	8	14	義歯床用レジン	加熱重合レジンの組成・重合反応		
	11	15	義歯床用レジン	加熱重合レジンの混和・変形・気泡		
	15	16	義歯床用レジン	常温重合レジンの組成・加熱重合レジンとの比較		
	18	17	義歯床用レジン	その他床用レジン(ポリカーボネート・ポリスルホン・ポリエーテルスルホン)、人工歯・裏装材		
	22	18	印象材	印象材の分類・ハイドロコロイド印象材		
	25	19	印象材	ゴム質印象材・非弾性印象材		
	29	20	印象材	寸法安定性・弾性ひずみ		
7月	2	21	印象材	固定操作と模型材		
	6	22	歯冠用硬質レジン	硬質レジンの組成・重合・金属との結合		

	9	23	歯科用陶材	組成・成型法
	13	24	歯科用陶材	陶材の分類・築盛・コンデンス
	16	25	歯科用陶材	焼成・気泡・強度
9月	3	26	金属焼付用陶材	金属と陶材の結合・ディギャッシング
	10	27	金属焼付用陶材	焼付用合金の所要性質
	17	28	まとめ	前期試験対策
10月	2	29	その他のセラミックス	ジルコニアの性質、加熱加圧型セラミックス
	9	30	金属	歯科用の金属元素・歯科用合金(鑄造用・加工用)
	14	31	金属	金の添加元素・金合金の種類(カラット・タイプ別・陶材焼付用)
	16	32	金属	金銀パラジウム合金・銀合金の種類
	21	33	金属	非貴金属合金の組成と性質
	23	34	鑄造・埋没材	鑄造理論・石膏系埋没材
	28	35	埋没材	非石膏系埋没材
11月	4	36	埋没材	通気性・強さ・スプルー・エアベント
	6	37	埋没材	円錐台・鑄造リング・緩衝材・界面活性剤・湯溜まり・鑄型の加熱
	11	38	鑄造	鑄造機の熱源
	13	39	鑄造	鑄造機の鑄込み方法
	18	40	鑄造欠陥	鑄巣・鑄込み不足
	20	41	鑄造欠陥	背圧多孔・鑄肌あれ・ホットスポット・バリ・突起
	25	42	鑄造欠陥	偏析・適合不良・変形
12月	2	43	ろう付け	ろう付けの原理
	4	44	ろう付け	ろう付けの原理
	9	45	金属の加工	加工硬化・焼き鈍し
	11	46	熱処理	軟化熱処理・硬化熱処理
	16	47	補綴物の仕上げ	研磨材の種類
1月	8	48	補綴物の仕上げ	研磨効率・電解研磨
	13	49	補綴物の仕上げ	電気化学的腐食
	15	50	補綴物の安定性	腐食の種類
	20	51	補綴物の安定性	腐食の抑制
	22	52	補綴物の安定性	高分子・セラミックの安定性
	27	53	まとめ	後期の試験対策

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	歯科理工学 (実習)		学 年	1 年	学 期	前、後期
担 当 者	木村卓也 杉原睦美 岡田薪		単 位 数	3単位	49回	136時間
実務経験	病院 歯科技工所 歯科技工所					
実習課題	基礎、石膏、レジン、ワックス、印象材、埋没材、硬質レジン、陶材、熱処理、ろう付け、インプラント					
実習目的	各種歯科材料の性質を理解し、取り扱いに慣れる。					
到達目標	各種歯科材料の特性と成型法を修得することにより臨床応用することができる。					
指導上の留意点	各種歯科材料の特性と成型方法の指導に重きを置く。					
評価方法	課題作品(レジン床、屈曲)とレポート、積極性を評価対象とする。					
使用教材	実習帳 広島歯科技工士専門学校編集					
実習内容						
月	回数	ステップ	進度の目安			時間
4月	1	基 礎	機械器具の整理			4
	2		(レジン成形)ろう義歯の埋没			4
	3		(レジン成形)ろう義歯のろう抜き			2
	4		(レジン成形)レジン填入～重合			4
	5		(レジン成形)義歯の割り出し			4
	6		(レジン成形)義歯の咬合調整			2
	7		(レジン成形)義歯の研磨			4
	8		(鑄造)クラウンのろう型採得～埋没			4
	9		(鑄造)クラウンの鑄造			4
5月	10	石 膏	(鑄造)クラウンの研磨			2
	11		石膏の硬化時間/圧縮試験試料製作			4
	12		石膏の硬化時間			2
	13		石膏の硬化膨張/石膏の圧縮試験試			4
	14		レジン	模型床の寸法精度 ろう型採得		
15	模型床の寸法精度 一次埋没～二次埋没			4		
6月	16	ワックス	模型床の寸法精度 ろう抜き/粉液の膨潤時間			4
	17		模型床の寸法精度 填入～重合～冷却			4
	18		模型床の寸法精度 割り出し～測定～切断～測定～連結			4
	19		模型床の寸法精度 研磨			2
	20		ワックスの応力緩和			4
7月	21	屈 曲	ワックスパターンの変形			2
	22		ワックスパターンの変形/まとめ			4
	23	金属線の屈曲 練習課題～まとめ課題			4	
	24	印象材	複模型の寸法制度/寒天印象材のゲル化温度			4
	25		アルジネート印象材の寸法制度/模型の表面状態			4
9月	26	各種弾性印象材の弾性比較			4	
	27	硬質レジン	硬質レジンの成分/硬質レジンの取り扱い			4
	28	陶 材	歯科用陶材の成分/取り扱い			4
	29		陶材焼付金属冠			4

10月	30	鑄造	鑄造圧・湯道・鑄型温度が鑄造に及ぼす影響 埋没	2
	31		鑄造圧・湯道・鑄型温度が鑄造に及ぼす影響 鑄造	2
	32		鑄造精度クラウン① 埋没	2
	33		鑄造精度クラウン① 鑄造／鑄造精度クラウン② 埋没	2
	34		鑄造精度クラウン② 鑄造／鑄造精度インレー① 埋没	2
	35		鑄造精度インレー① 鑄造	2
	36	埋没材	埋没材の硬化膨張	4
11月	37		鑄造精度まとめ	2
	38		埋没材の成分／埋没材の取扱い	2
	39	ろう付け	クラウンのろう付け 埋没	2
	40		クラウンのろう付け ろう付け	2
	41	熱処理	銅板の加工硬化・焼きなまし	2
	42		金銀パラジウム合金の軟化熱処理	2
12月	43		金銀パラジウム合金の硬化熱処理	2
	44	インプラント	インプラントの基礎	2
	45	CAD/CAM	CAD/CAM	2

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	有床義歯技工学	学年	1 年	学期	前期
担 当 者	赤川 安正	単位数	2 単位	1 5 回	3 0 時間
実務経験	大学、病院				
講義目的	歯の欠損に対する有床義歯技工学の意義と目的、全部床義歯の製作に関する知識と技工操作を理解する。				
到達目標	1 : 有床義歯技工学の意義と目的を説明できる。 2 : 全部床義歯の製作手順と技工作業を説明できる。				
指導上の留意点	視覚教材（パワーポイントや技工物など）を多用し、わかりやすく講義する。				
評価方法	出席状況、授業態度、試験の成績を総合的に評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
4 月	21	1	有床義歯技工の概説	
	23	2	生体の基礎知識 1	
5 月	12	3	生体の基礎知識 2	
	19	4	全部床義歯の特性、製作順序	
	26	5	印象採得に伴う技工	
6 月	2	6	咬合採得に伴う技工 1	作業用模型、咬合床
	9	7	咬合採得に伴う技工 2	咬合器装着
	16	8	人工歯排列（前歯）	
	23	9	人工歯排列（臼歯）、歯肉形成	
7 月	3	10	埋没、重合	
	7	11	咬合器再装着、削合、研磨	
	14	12	装着、調整	
	21	13	まとめ 1	
9 月	1	14	まとめ 2	
	8	15	まとめ 3	
	28		前期試験	

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	有床義歯技工学	学年	1 年	学期	後期
担 当 者	赤川 安正	単位数	2 単位	1 5 回	3 0 時間
実務経験	大学、病院				
講義目的 到達目標	部分床義歯の特性と製作に関する知識と技工操作を理解する。 1 : 部分床義歯の特性を説明できる。 2 : 部分床義歯の構成要素を列挙できる。 3 : 部分床義歯の製作手順と技工作業を説明できる。				
指導上の 留意点	視覚教材（パワーポイント、技工物など）を多用して、わかりやすく講義する。				
評価方法	出席状況、授業態度、試験の成績を総合して評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
10月	6	1	部分床義歯の特性、製作順序	
	13	2	構成要素：支台装置 1	
	20	3	構成要素：支台装置 2	
	22	4	構成要素：連結子、義歯床、人工歯	
	27	5	印象採得と咬合採得に伴う技工作業	
11月	10	6	クラスプの製作	
	17	7	バーの製作、人工歯排列、削合、歯肉形成	
	24	8	埋没、重合、咬合調整、研磨	
12月	1	9	義歯の修理、リベース、リライン	
	8	10	オーバーデンチャー、金属床義歯	
	15	11	その他の有床義歯	ノンメタルクラスプデンチャー
1 月	7	12	まとめ 1	
	12	13	まとめ 2	
	19	14	まとめ 3	
	26	15	まとめ 4	
2 月	3		後期試験	

シラバス（実習計画）

2026年度

科目名	有床義歯技工学（実習）	学年	1学年	学期	前・後期
担当者	杉原睦美・岡田薪	単位数	6単位	79回	294時間
実務経験	歯科技工所・歯科技工所				
実習課題	①全部床義歯用個人トレー（上顎） ②全部床義歯（上下顎） ③部分床義歯用個人トレー（上顎） ④支台装置 鑄造鉤1本（直接法） 線鉤1本（レスト板圧接法） ⑤鑄造鉤形態習得（ろう型採得6種） （エーカースクラスプ・コンビネーションクラスプ・リングクラスプ・ バックアクションクラスプ・双子鉤・RPIクラスプ） ⑥一本義歯1床（フランス式埋没法） ⑦鑄造パラタルバー（ろう型採得） ⑧鑄造リンガルバー（鑄造完成） ⑨部分床義歯（下顎） （レスト鑄接法・レスト板圧接法・屈曲リンガルバー・アメリカフランス併用式埋没法）				
実習目的 到達目標	①有床義歯の目的・構成および製作に関する知識について理解する。 ②義歯の製作について生物学的および理工学的な理論に基づいた実技を習得し、 その専門的技術を適応できる能力を養う。				
指導上の 留意点	義歯関連作品の製作を通じて、構成材料の名称および使用目的の把握と使用材料 の取り扱いに関する技量について学生個々の習得状況を観察しながら、個々に 適応した指導に努める。				
評価方法	*以下の作品の総合評価とする。 ①全部床義歯用個人トレー（上顎） ②全部床義歯製作過程の咬合床（上下顎） ③全部床義歯（上下顎） ④部分床義歯用個人トレー（上顎） ⑤鑄造鉤形態習得（ろう型採得6種） ⑥鑄造パラタルバー（ろう型） ⑦鑄造リンガルバー（完成） ⑧部分床義歯製作過程の咬合床（下顎） ⑨部分床義歯（下顎）				
使用教材	各実習テキスト・教科書				
実習内容	実習内容については別紙に示す。				

実習内容

有床義歯技工学（実習）

月	回数	実習課題	進行の目安	時間数	
4月	第1回	全部床個人トレー	設計	4時間	
	第2回		リリース	2時間	
	第3回		レジン圧接・柄とフィンガーレストの付与	2時間	
	第4回		形態修正	4時間	
	第5回		研磨	2時間	
	第6回		模型処理	2時間	
	第7回	全部床義歯	設計・リリース・ポストダム	4時間	
	第8回		基礎床圧接・形態修正	4時間	
	第9回		バイトリム取り付け・上下顎の高さ調整	4時間	
	第10回		上顎咬合堤の作図・形成	4時間	
5月	第11回		下顎咬合堤の作図・形成	4時間	
	第12回		咬合器装着	4時間	
	第13回		咬合堤の修正	4時間	
	第14回			4時間	
	第15回		咬合堤の修正完了	4時間	
	第16回		上顎前歯部排列・下顎前歯部排列	4時間	
	第17回	上顎臼歯部排列	4時間		
	第18回	下顎臼歯部排列	4時間		
6月	第19回	全部床義歯	上顎歯肉形成	2時間	
	第20回			2時間	
	第21回			2時間	
	第22回		テンチの歯型採得・下顎歯肉形	4時間	
	第23回		埋没	2時間	
	第24回		脱ろう・レジン填入・重合	4時間	
	第25回		割り出し・形態修正	4時間	
	第26回		研磨	4時間	
	第27回			2時間	
	第28回		ボクシング・模型調整完了・咬合器再装着	4時間	
7月	第29回	全部床義歯	咬合器再装着完了	4時間	
	第30回		選択削合（咬頭嵌合位・側方運動・前方運動）	4時間	
	第31回			4時間	
	第32回		自動削合	4時間	
	第33回		人工歯形態修正・研磨	4時間	
	第34回			4時間	
	第35回		実習前準備	レスト座形成	4時間
	第36回		支台装置	サベイング・設計・ブロックアウト	6時間
第37回	リリース・線鉤屈曲開始	4時間			
9月	第38回	部分床個人トレー	サベイング・設計	4時間	
	第39回		リリース・ブロックアウト	4時間	
	第40回		スペーサー・ストッパー	4時間	
	第41回		レジン圧接・柄の付与・形態修正・研磨	4時間	
	第42回		維持・コンパウンドの付与	4時間	
	第43回		模型処理	4時間	
	第44回	支台装置	7 鑄造鉤ろう型採得	2時間	
	第45回		5 線鉤屈曲完了	4時間	
10月	第46回	支台装置	7 鑄造鉤埋没・5レストシート圧接～埋没	4時間	
	第47回		鑄造完了・レストろう付け完了	2時間	
	第48回		クラスプ形態修正	4時間	
	第49回	一本義歯	研磨・クラスプ完成	2時間	
	第50回		排列・歯肉形成完了	4時間	
	第51回		埋没前準備・埋没	2時間	
	第52回		脱ろう・レジン填入・重合	4時間	
	第53回		割り出し・形態修正・研磨	4時間	
	第54回		コンビネーションクラスプ・エーカークラスプ	4時間	

11月	第55回	鑄造鉤形態習得	双子鉤	2時間
	第56回		バックアクションクラスプ・リングクラスプ	4時間
	第57回		RPIクラスプ	4時間
	第58回	部分床義歯	サベイング・設計・ブロックアウト	4時間
	第59回		咬合床完成	4時間
	第60回		咬合器装着	4時間
12月	第61回			4時間
	第62回		サベイング・設計	4時間
	第63回		ブロックアウト・リリース	4時間
	第64回	リングルバー屈曲開始	2時間	
1月	第65回		4 5線鉤屈曲(各40分) * 残り時間で修正	4時間
	第66回	鑄造バー・試験対策	設計・リリース・リングルバーろう型採得	4時間
	第67回		模試Ⅰ・リングルバー埋没	4時間
	第68回		リングルバー鑄造・耐火模型製作・模試Ⅰの修正	4時間
	第69回		模試Ⅱ・パラタルバーろう型採得	4時間
	第70回		形態修正・研磨・模試Ⅱの修正	4時間
	第71回		模試Ⅲ・模試Ⅲの修正	6時間
2月	第72回		部分床義歯	7 鑄造鉤・4 線鉤レストろう型採得・埋没
	第73回	5線鉤レストシート圧接～埋没・鑄造		4時間
	第74回	レストろう付け・クラスプ・バー完成		4時間
	第75回	排列前準備・排列開始		4時間
3月	第76回	埋没前準備・埋没		4時間
	第77回	脱ろう・レジン填入・重合		4時間
	第78回	割り出し・形態修正・研磨		8時間
	第79回	全作品提出		4時間

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	歯冠修復技工学	学年	1 年	学期	前期
担 当 者	赤川 安正	単位数	2 単位	1 5 回	3 0 時間
実務経験	大学、病院				
講義目的	歯質と少数歯欠損に対する歯冠修復技工学の意義と目的、クラウン・ブリッジの製作に関する知識と技工操作を理解する。				
到達目標	1 : クラウンの種類と特徴、技工作業を説明できる。 2 : ブリッジの種類と特徴、技工作業を説明できる。				
指導上の留意点	視覚教材（パワーポイント、技工物など）を多用して、わかりやすく講義する。				
評価方法	出席状況、授業態度、試験の成績を総合して評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
4 月	14	1	歯冠修復技工学の概要	
	21	2	クラウンの概要と種類 1	部分被覆冠
5 月	12	3	クラウンの概要と種類 2	全部被覆冠
	19	4	ブリッジの概要と種類	
	26	5	クラウンとブリッジの具備要件	
6 月	2	6	クラウンとブリッジの製作 1	プロビジョナルレストレーション・ブリッジ
	9	7	クラウンとブリッジの製作 2	色調選択～クラウンに与える咬合
	16	8	クラウンとブリッジの製作 3	ワックスパターン形成、埋没
	23	9	クラウンとブリッジの製作 4	鑄造作業、連結法
7 月	3	10	クラウンとブリッジの製作 5	調整～試適・仮着・合着
	7	11	クラウンとブリッジの製作 6	レジン前装～クラウンの不具合の原因
	14	12	まとめ 1	
	21	13	まとめ 2	
9 月	1	14	まとめ 3	
	8	15	まとめ 4	
	28		前期試験	

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	歯冠修復技工学	学年	1 年	学期	後期
担 当 者	赤川 安正 峯 裕一	単位数	2 単位	1 5 回	3 0 時間
実務経験	大学、病院				
講義目的	部分・全部被覆冠、ブリッジ、インプラント上部構造の製作に関する知識と技工操作を理解する。				
到達目標	1 : 部分被覆冠、全部被覆冠、ブリッジの製作手順と技工作業を説明できる。 2 : インプラントとCAD/CAMを説明できる。				
指導上の留意点	視覚教材（パワーポイント、技工物など）を多用して、わかりやすく講義する。				
評価方法	出席状況、授業態度、試験の成績を総合して評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
10月	6	1	歯冠修復物と部分被覆冠	
	13	2	全部被覆冠 1	全部金属冠、前装冠
	20	3	全部被覆冠 2	前装冠、ジャケットクラウン
	22	4	ブリッジ 1	支台装置、ポンティック
	27	5	ブリッジ 2	連結法、ブリッジの製作法
11月	10	6	ブリッジ 3	接着ブリッジの製作法
	17	7	インプラント 1	インプラントの歴史と現在
	24	8	インプラント 2	インプラントの概要～治療の流れと歯科技工
12月	1	9	インプラント 3	インプラントの種類～上部構造製作技工
	8	10	CAD/CAM	
	15	11	まとめ 1	
1 月	7	12	まとめ 2	
	12	13	まとめ 3	
	19	14	まとめ 4	
	26	15	デジタル技工とAI	特別授業
2 月	3		後期試験	

シラバス(実習計画)					2026年度	
学 科 目	歯冠修復技工学 (実習)		学 年	1年	学期	前、後期
担 当 者	木村卓也 杉原睦美 岡田 薪		単位数	5単位	61回	226時間
実務経験	病院 歯科技工所 歯科技工所					
実習課題	分割復位式模型 全部金属冠 前装冠模刻 メタルコア 部分被覆冠					
	ブリッジの歯型可撤式模型					
実習目的	歯冠修復技工学に関する総合的な事柄を学ぶ。					
到達目標	分割復位式模型 全部金属冠 メタルコア 部分被覆冠の製作ができる。					
指導上の留意点	歯冠修復関連の総合的な指導をするとともにろう型採得を繰り返し練習する。					
評価方法	全部金属冠 メタルコア 部分被覆冠の総合評価とする。					
使用教材	実習帳 広島歯科技工士専門学校編集					
実習内容						
月	回数	ステップ	進度の目安		時間数	
9	1	分割復位式 模型	ダウエルピン植立～ボクシング(実習用)		4時間	
	2		歯型分割		2時間	
	3		トリミング		4時間	
	4		南加大式咬合器装着		2時間	
	5				4時間	
	6		クラウン模型Ⅱ		4時間	
10	7	全部金属冠			2時間	
	8		ワックス盛り上げ練習		4時間	
	9				2時間	
	10				2時間	
	11		外形練習		4時間	
	12		クラウン模型Ⅲ～Ⅳ		2時間	
	13				2時間	
	14		主溝形成練習		2時間	
11	15			2時間		
	16			2時間		
	17	ろう型完成練習		2時間		
	18	部分被覆冠模型 2級、MOD(モデルフォーマー)		4時間		
	19			2時間		
	20	ろう型～埋没～鑄造Ⅰ		4時間		
	21			4時間		
	22	研磨Ⅰ		2時間		
	23			2時間		
12	24	ろう型～埋没～鑄造Ⅱ		6時間		
	25	クラウン模型Ⅱ～Ⅳ咬合器装着		4時間		
	26	研磨Ⅱ		2時間		
	27			2時間		
	28	ろう型～埋没～鑄造Ⅲ		4時間		

1	29		試験用模型	2時間
	30		研磨Ⅲ	2時間
	31		メタルコア模型	4時間
	32		ろう型～埋没～鑄造Ⅳ	6時間
	33			2時間
	34		研磨Ⅳ	4時間
	35			4時間
	36			2時間
	37		クラウンⅡ	4時間
	38		クラウンろう型採得模擬試験Ⅰ	4時間
	39			2時間
	40		クラウンⅢ	4時間
	41			2時間
42		クラウンろう型採得模擬試験Ⅱ	4時間	
2	43			4時間
	44			4時間
	45		クラウンⅣ	8時間
	46			4時間
	47		クラウンろう型採得模擬試験Ⅲ	4時間
	48			6時間
	49	メタルコア	メタルコアろう型採得	4時間
	50			4時間
	51			4時間
	52		メタルコア鑄造～形態修正 臼歯ブリッジ模型	4時間
3	53			4時間
	54			4時間
	55		前歯ブリッジ模型	4時間
	56	部分被覆冠	部分被覆冠蠟型採得～埋没	4時間
	57			8時間
	58		部分被覆冠鑄造～研磨	4時間
	59			8時間
	60	前装冠	前装冠模刻～鑄造	8時間
	61			8時間

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	矯正歯科技工学	学 年	1 年	学 期	後 期
担 当 者	小笠原 伯宏	単位数	1単位	10回	20時間
実務経験	大学、病院				
講義目的 到達目標	矯正歯科技工学に必要な基本的知識を習得する。				
指導上の 留意点	全員が授業に参加できるように教本の読み合いを行う。				
評価方法	期末試験の成績に出席状況を加味する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学 医歯薬出版株式会社				
使用教室	第二教室 (5F)				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
10月	1	1	1章 矯正歯科治療とは	
			2章 矯正歯科技工学の意義と目的	
		2	3章 正常咬合と不正咬合 (咬合異常)	
	8	3	4章 矯正歯科治療の進め方	
		4	5章 矯正歯科技工用器具と器械、材料	
			6章 矯正歯科技工の手技	
	15	5	7章 矯正用口腔模型製作	
			8章 矯正装置の必要条件と分類	
		6	9章 矯正装置の製作法 (1, 2, 14, 16)	
	29	7	9章 矯正装置の製作法 (3, 4, 15)	
8		9章 矯正装置の製作法 (5, 6, 7, 8, 13)		
11月	5	9	9章 矯正装置の製作法 (9, 10, 11, 12)	
		10	10章 保定装置 (静的矯正装置)	

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	矯正歯科技工学 (実習)	学 年	1 年	学 期	後 期
担 当 者	小笠原伯宏 杉原睦美	単 位 数	1 単 位	9 回	36 時間
実務経験	大学、病院				
実習課題	①線屈曲 ②自在ろう付け ③舌側弧線装置 ④ホーレーの保定装置 ⑤アクチバトール				
実習目的	矯正装置・保定装置の製作技術を修得する				
到達目標	各種装置の製作技術を修得する				
指導上の留意点	デモンストレーションは広島大学歯学部矯正科の講師が行う				
評価方法	各種装置の課題作品の成績で評価する (線屈曲、自在ろう付け、舌側弧線装置、保定装置、アクチバトール)				
使用教材	学校が独自に作成した各実習テキスト 矯正歯科技工学教本 全国歯科技工士教育協議会				

実習内容

月	回数	ステップ	進度の目安	時間
12月	第1回	線屈曲	線屈曲	4時間
		自在ろう付け	自在ろう付け	
1月	第2回	線屈曲	線屈曲	4時間
		自在ろう付け アクチバトール	自在ろう付け 構成咬合器装着	
	第3回	舌側弧線装置	バンド調整～S.T.ロックのろう付け	4時間
			印象採得～作業用模型	
			主線・S.T.ロック脚部の屈曲	
第4回		ろう付け～研磨	4時間	
第5回		補助弾線の屈曲・ろう付け	4時間	
2月	第6回	ホーレーの保定装置	設計～アダムスのクラスプの屈曲	4時間
			接歯唇側線の屈曲 レジン床製作	
	第7回		形態修正～研磨	4時間
3月	第8回	アクチバトール	設計～誘導線の屈曲	4時間
	第9回		完成	4時間

シラバス(講義計画)

2026年度

学 科 目	小児歯科技工学	学年	1 年	学期	後期
担 当 者	香西 克之	単位数	1単位	5回	20時間
実務経験	大学、病院歯科				
講義目的 到達目標	発育途上の小児の口腔内について理解する。 小児期に特徴的な口腔疾患とその、さらに発育に対応した歯科技工物の種類や特徴を学ぶ。				
指導上の 留意点	教科書を十分に読み込んで、理解を深める。				
評価方法	期末試験の成績と授業態度、達成度評価などで評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学第2版：医歯薬出版				
使用教室	第二教室（5F）				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
10月	5	1	小児歯科技工概説	
			歯・顎・顔面の発育 1	
	19	2	歯・顎・顔面の発育 2	
			小児の歯冠修復、咬合誘導装置の種類	
	26	3	保隙装置 1	
			保隙装置 2	
11月	9	4	スペースリゲーター	
			口腔習癖除去装置・咬合誘導装置に用いる維持装置	
	16	5	プレテスト	
			まとめ	

シラバス（実習計画）

2026年度

学 科 目	小児歯科技工学（実習）		学 年	1 年	学 期	後 期
担 当 者	香西克之 木村卓也		単 位 数	1 単 位	9 回	36時間
実務経験	大学、病院 病院					
実習課題	① スケッチ（下顎右側第一乳臼歯） ② 歯型彫刻（下顎右側第一乳臼歯） ③ クラウンワイヤーループ ④ 床型保隙装置（小児義歯）					
実習目的 到達目標	① 永久歯と比較した乳歯の特徴を十分に理解させる。 ② 小児歯科特有の装置である代表的な保隙装置の製作方法を習得させながら、保隙装置のもつ意義を理解させる。					
指導上の 留意点	保隙装置は正常な永久歯咬合を導くための装置であることを認識させるためにも、不良箇所についてはその理由を的確に指摘して指導する。					
評価方法	① 講義期間中に課題とした下顎右側第一乳臼歯のスケッチも評価に加える ② 歯型彫刻（下顎右側第一乳臼歯） ③ クラウンワイヤーループ ④ 床型保隙装置（小児義歯）					
使用教材	学校が独自に作成した各実習テキスト 小児歯科技工学教本 全国歯科技工士教育協議会					
実習内容						
月	回数	実習課題	進 行 の 目 安			時間
11月	30	歯型彫刻（下顎右側D）	石膏ブロックの調整			4 時間
		クラウンワイヤーループ	乳歯冠の調整			
		床型保隙装置（小児義歯）	咬合器装着			
12月	7	クラウンワイヤーループ	作業用模型作成（印象～石膏注入～模型調整）			4 時間
		歯型彫刻（下顎右側D）	外形・咬合面・歯根分岐部など詳細部を彫刻 → 完成			
		クラウンワイヤーループ	設計～リリース			
	14	クラウンワイヤーループ	ループの屈曲（ステップ① 完了）			4 時間
		クラウンワイヤーループ	ろう着～研磨完了・・・完成			
1月	18	床型保隙装置（小児義歯）	設計～リリース～棚付け			4 時間
		床型保隙装置（小児義歯）	唇側線の屈曲 開始			
	25	床型保隙装置（小児義歯）	唇側線の屈曲完了			4 時間
		床型保隙装置（小児義歯）	ブロックアウト			
2月	8	床型保隙装置（小児義歯）	人工歯排列～頬側へのレジン盛り上げ完了			4 時間
		床型保隙装置（小児義歯）	唇側線との連結～床部のレジン盛り上げ			
	22	床型保隙装置（小児義歯）	歯肉形成（形態修正）			4 時間
		床型保隙装置（小児義歯）	研磨			
3月	1	床型保隙装置（小児義歯）	研磨完了～模型の処理 → 完成			4 時間

シラバス(講義計画)

2026 年度

学 科 目	関係法規	学年	2 年	学期	前期
担 当 者	加来 真人 山崎 浩希	単位数	1単位	8回	16時間
実務経験	大学・病院 病院				
講義目的 到達目標	1. 歯科技工士法を理解する 2. 歯科関連法規を理解する				
指導上の 留意点	歯科技工士をとりまく環境を理解する				
評価方法	定期試験の結果				
使用教材	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学 歯科技工士国家試験問題集				
使用教室	第一教室 (4F)				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備 考
5月	12	1	法律の概要	法と衛生行政
	19	2	歯科技工士法	総則・免許
6月	2	3	歯科技工士試験	試験について
	9	4	歯科技工士の業務	業務について
	16	5	その他の関係法規	その他
	23	6	復習	テスト対策
9月	11	7	歯科技工士法まとめ	まとめ (担当 山崎)
	24	8	歯科技工士法まとめ	まとめ (担当 山崎)
	29		前期試験	

シラバス(講義計画)

2026年度

学科目	顎口腔機能学	学年	2年	学期	前期
担当者	赤川 安正	単位数	1単位	10回	20時間
実務経験	大学、病院				
講義目的 到達目標	G10:顎口腔系の解剖と機能について理解する SBOs ; 咀嚼に関連した筋群・基準平面について説明できる 下顎位と下顎運動について説明できる 下顎運動と咬合について理解している 下顎運動と咬合器の関連性を理解している 下顎運動と咬合面形態の関連性を理解している				
指導上の 留意点	1. 各々の講義で毎回、重要事項が出てくるので、欠席しないように努めること。 2. 予習と復習を必ず行うこと。				
評価方法	試験の成績により、評価する。				
使用教材	最新歯科技工士教本 顎口腔機能 第2版				
使用教室	第二教室 (5F)				

講義内容

月	日	回数	講義項目	備考
5月	21	1	顎口腔系(咀嚼系)の機能	
6月	4	2	顎口腔系の形態	
		3	顎口腔系に係る筋肉	
	11	4	下顎位と下顎運動	
	18	5	咬合に関する平面と下顎の限界運動	
		6	機能運動	
	25	7	歯の接触様式と咬合干渉	
7月	2	8	咬合器1	
		9	咬合器2	
	9	10	まとめ	
9月	29		前期試験	

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	顎口腔機能学		学 年	2年	学 期	前期
担 当 者	荒谷 康德 山崎 浩希		単位数	1単位	23回	(46時間)
実務経験	歯科技工所で勤務					
実習課題	ワックスコーンテクニック・半調節性咬合器の操作・マウスガード					
講義目的	①顎口腔系の機能、歯の形態、咬合面の各要素を理解する。					
到達目標	②咬合器の取扱い方を教え、その基本を習得させる。					
評価方法	実習課題などの提出物の成績に、レポートなどの成績を加味して評価					
使用教材	最新歯科技工士教本 顎口腔機能学 本校作成の実習帳					
使用教室	歯科理工学検査室 4F 技工実習室					
実習回数	実習時間	実習期間	実習課題			
17	34	4/13～4/22	1. ワックスコーンテクニック 上顎右側第一大臼歯のワックスアップ 上下顎左側第一大臼歯のワックスアップ			
2	4	5月18日	2. マウスガード			
4	8	6/2、6/9	3. 半調節性咬合器の使用操作			
23	46					

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	1. ワックスコーンテクニック				
実習目的	上下顎の大臼歯に調和の取れた咬合面形態を形成するための基礎的事項を学ぶ				
到達目標	ワックスの取扱い。各パーツを盛り上げながら咬合面のワックスアップ				
指導上の留意点	レポート、塗り絵あり				
学校準備品	ゴム枠 DMU-U,L、ユニティー咬合器、色鉛筆				
使用材料	カラーワックス4色(各1/2本)				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ(上顎のみ)		デモ
6	12	4/13~4/15	1	作業用模型の製作	↑
			2	咬合器装着	前日までに
			3	標示線記入	4/13 ①
			4	咬合面削除	↓
			5	基準線及び咬頭、窩の記入	↓
			6	カस्पコーンの植立	4/13 ②
			7	マージナルリッジ	4/13 ③
			8	隆線の形成	4/13 ④
			9	副隆線・副溝の形成	4/15 ①
			10	完成	
			実習ステップ(上下顎)		
11	22	4/15~4/22	1	標示線記入	
			2	咬合面削除	
			3	基準線及び咬頭、窩の記入	4/15 ③
			4	カस्पコーンの植立	4/20 ①
			5	マージナルリッジ	4/20 ②
			6	隆線の形成	4/20 ④
			7	副隆線・副溝の形成	
			8	完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	2. マウスガードの製作			
実習目的 到達目標	各自の口腔内模型でマウスガード製作方法を習得			
指導上の 留意点	半調節性咬合器と併用			
学校準備品 使用材料	モデルキャプチャー、キャプチャーシート4mm 金冠はさみ マウスガードフィッシャー			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	
2	4	5月18日	1 印象採得	
			2 模型製作	5/18 ①
			3 マウスガードの設計	↓
			4 分離材の塗布	↓
			5 シートの形成	↓
			6 シートのトリミング	↓
			7 咬合調整	↓
			8 研磨と仕上げ	↓

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	3. 半調節性咬合器の使用操作&マウスガードの製作				
実習目的 到達目標	各自の口腔内模型を使用し、顔弓を用いて咬合器に模型装着				
指導上の 留意点	2人1組で実習 マウスガードの咬合調整含む				
学校準備品 使用材料	デンタータス咬合器・顔弓				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ（上顎のみ）		デモ
4	8	6/2、6/9	1	印象採得	
			2	模型製作1	
			3	マウスガードの製作	↓
			4	模型製作2 スプリットキャスト	1週間前
			5	基準点の設定	初日①
			6	顔弓の記録	↓
			7	咬合器装着 上顎	初日②
			8	咬合器装着 下顎	2日目①
			9	チェックバイト採得	↓
			10	矢状顎路角の測定	↓
			11	側方顎路角の測定	↓
			12	マウスガードの調整・試適	2日目②
			13	咬合器の点検・掃除	↓

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	有床義歯技工学		学年	2年	学期	前期
担当者	荒谷 康德 山崎 浩希		単位数	6単位	136回	(272時間)
実務経験	歯科技工所で勤務					
実習目的 到達目標	①有床義歯の目的および製作に関する知識について理解させる。 ②有床義歯の製作について生物学的な理論と工学的な理論に基づいた実技を習得し、その専門的技術を適用できる能力を養わせる。 ③遠足、オリエンテーション					
評価方法	実習課題などの提出物の成績に、レポートなどの成績を加味して評価					
使用教材	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 本校作成の実習帳					
使用教室	4F 技工実習室 鑄造研磨室					
実習回数	実習時間	期間	実習課題			
4	8	4月7日	1. 模型製作			
25	50	4/9～4/30	2. 金属床義歯 (MP) 上顎 金属床製作			
6	12	4/9～4/23	3. 咬合床ブロック			
32	64	5/7～6/19	4. 全部床義歯 (FD)			
27	54	6/25～7/24	5. 部分床義歯 I (PD- I) 上顎 部分床義歯			
14	28	9/7～9/24	6. 金属床義歯 (MPD)			
18	36	5/7～9/16	7. 人工歯排列(下顎法)			
10	20	5/1、6/5、8/31	8. オリエンテーション			
136	272					

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	1. 模型製作				
実習目的	前期で使用する作業用模型を製作する				
到達目標	各補綴物を正確に製作することができる作業用模型を製作することができる				
指導上の留意点	別紙、製作表に照らし合わせ、注意事項を説明 基底部の状態を指示、番号の記入、トリマー1台は予約制				
学校準備品 使用教材	製作表、実習帳配布、トリマー予定表				
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
4	8	4月7日		作業用模型製作→各実習帳に検印	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	2. 金属床義歯 I (MP)			
実習目的 到達目標	上顎全部床義歯の金属床の製作方法を習得する 金属床の製作方法を修得するとともに加圧吸引型高周波鑄造機について学ぶ			
指導上の 留意点	各種、機械、器具、材料の使用方法を指導する			
学校準備品 使用教材	シリコーンゴム印象材、シリコンフラスコ、練和ヘラ、計量カップ、耐火埋没材、専用液 乾燥機、ワックスバス、コーティングワックス、リングレスリング、メタル、高速レーズ、研磨材、 電解研磨機、電解液、大型サンドブラスター、大型ファーネス、高温鑄造機、攪拌機(大2小2)			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
25	50	4/9~4/30	1 石膏模型の製作	4/9 ① スライド
			2 床外形線の記入	4/9 ①
			3 後提法の付与	↓
			4 緩衝と填塞	4/9 ②
			5 複印象採得	4/14 ①
			6 耐火模型の製作	4/14 ②
			7 耐火模型の表面処理	4/14 ④
			8 床外形線の転写	↓
			9 ろう型採得	4/16 ①
			10 スプルーの植立	4/21 ②
			11 ろう型埋没	4/21 ②
			12 焼却・鑄造	4/22 ③
			13 金属床の研磨(形態修正)	4/23 ①
			14 電解研磨	4/24 ①
			15 金属床の研磨(仕上げ)	↓
			16 完 成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	3. 咬合床ブロック				
実習目的 到達目標	人工歯排列実習で用いるろう堤の型を作製する				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用教材					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
6	12	4/9~4/23	1	模型製作	
			2	ブロック用咬合床	
			3	咬合器装着	
			4	完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	4. 全部床義歯(FD)				
実習目的 到達目標	臨床的模型による上下顎全部床義歯(下顎法)の製作方法を習得する 平衡咬合を与える人工歯排列、削合とそれに伴う技工操作を習得する				
指導上の 留意点	下顎法による排列と削合の理論を指導する 1年次の復習として指導する 排列以降は個人差が出てくるので個々に指導する				
学校準備品 使用材料	サベイヤー、脱ろう機、重合鍋、油圧プレス、カーボランダム泥、レース F-2U. L				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ		デモ
32	64	5/7~6/19	1	模型の製作	
			2	設 計	5/7 ③
			3	平行測定	5/7 ③'
			4	添窩部填塞と緩衝	5/7 ④
			5	後提法の製作	↓
			6	咬合床の製作	5/12 ①
			7	咬合器装着(ハンディーNo.1)	↓
			8	咬合床の修正	
			9	排 列 上顎前歯	
			10	排 列 下顎前歯	
			11	排 列 下顎臼歯	
			12	排 列 上顎大1大臼歯	
			13	排 列 上顎臼歯	
			14	歯肉形成:ろう義歯の完成	
			15	ろう義歯のフラスコ埋没の前準備	
			16	ろう義歯のフラスコ埋没	
			17	流ろう・分離剤の塗布	
			18	レジン予備重合	
			19	レジン填入	
			20	レジン本重合	
			21	咬合器再装着	
			22	選択削合:咬頭嵌合位	
				選択削合:側方運動(作業側と平衡側)	
				選択削合:前方運動	
			23	自動削合	
			24	形態修正(排出路の形成)	
25	研 磨				
26	完 成				

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	5. 部分床義歯(上顎) (PD)			
実習目的 到達目標	部分床義歯の構成を理解するとともに、その製作法を習得する 咬合採得と咬合器装着の関係を理解する 人工歯排列とコア採得を修得する。コンビネーション鉤の製作を習得する			
指導上の 留意点	人工歯排列をコア採得、スプリットキャスト法による埋没、コンビネーション鉤のろう付けの指導をする。 咬合採得～咬合器装着方法を理解させる			
学校準備品 使用材料	咬合提、サベイヤー、リリース、支台装置、熱処理、パラタルバー、埋没、研磨) サベイヤー、脱ろう機、重合鍋、油圧プレス、レーズ P-1U、500A-L			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
27	54	6/25～7/24	1 模型の製作	
			2 平行測定①	6/25 ①
			3 咬合床の設計	↓
			4 咬合床のブロックアウト及びリリース	6/25 ②
			5 咬合床製作	6/25 ④
			6 咬合採得、咬合器装着	6/30 ④
			7 平行測定②	7/2 ②
			8 設 計	7/2 ④
			9 ブロックアウトおよびリリース	↓
			10 支台装置製作	
			11 鑄造鉤の熱処理	
			12 パラタルバー製作	
			13 人工歯排列	7/14 ③
			14 歯肉形成およびろう義歯の完成	
			15 ろう義歯埋没の前準備	
			16 ろう義歯のフラスコ埋没	
			17 流ろう・分離剤の塗布	
			18 レジン填入	
			19 レジン重合	
			20 咬合器再装着	
			21 咬合調整	
			22 形態修正	
			23 研 磨	
			24 完 成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	6. 金属床義歯(MPD)			
実習目的 到達目標	金属床義歯の構成を理解するとともに、その製作法を習得する 金属床義歯の製作方法の習得			
指導上の 留意点	5月に製作した金属床フレームを使用して全部床義歯を完成させる 人工歯排列の復習を兼ねた指導をする			
学校準備品 使用材料	人工歯、脱ろう機、重合鍋、油圧プレス、レース 503-L 咬合採得用に咬合器に装着された模型			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
14	28	9/7~9/24	1 模型の製作	
			2 設計(咬合床)	
			3 咬合床製作	
			4 咬合採得	
			5 咬合器装着	夏休み迄
			6 人工歯排列	
			7 ろう義歯完成(口腔内試適)	
			8 辺縁封鎖	
			9 フラスコ埋没前処置	
			10 フラスコ埋没	
			11 流ろう・分離剤の塗布	
			12 レジン重合	
			13 咬合器再装着	
			14 咬合調整・人工歯形態修正	
			15 研磨	
			16 完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	7. 人工歯排列			
実習目的	人工歯排列～歯肉形成を習得する			
到達目標	人工歯排列、歯肉形成を正確にかつ時間内に完成することができる			
指導上の留意点	180分から徐々に時間短縮を行い、150分での完成を目標とする			
学校準備品 使用教材	G-Cリブデント			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
18	36	5月7日	1 前歯部排列	5/7 ①
			2 臼歯部排列	5/7 ②
		5月14日	3 歯肉形成	5/14 ①
			4 完成	
		6月16日		
		6月23日		
		6月30日		
		7月8日		
		7月14日		
		9月9日		
9月16日				

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	8. オリエンテーション・研修旅行				
実習目的 到達目標	オリエンテーションや研修旅行を通じて、円滑な人間関係等を構築する				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用教材					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
10	20	5/1、6/5、8/31		オリエンテーション	

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	歯冠修復技工学		学 年	2年	学 期	前期
担 当 者	荒谷 康德 山崎 浩希		単 位 数	6単位	135回	(270時間)
実務経験	歯科技工所で勤務					
講義目的	①各種の歯冠修復物及び架工義歯の種類と構成などを理解させる。					
到達目標	②歯冠修復物及び架工義歯の目的と製作に関する知識を理解させる。 ③歯冠修復物の製作について、理論に基づいた実技を習得し、各種の歯冠修復物の製作。					
評価方法	実習課題などの提出物の成績に、レポートなどの成績を加味して評価					
使用教材	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 本校作成の実習帳					
使用教室	4F 技工実習室 鑄造研磨室 ポーセレン室					
実習回数	実習時間	実習期間	実習課題			
6	12	4/8、4/10	1. 模型製作			
8	16	4/27、5/8	2. プロビジョナルクラウン(Provi)			
21	42	5/11～6/1	3. レジン前装冠Ⅰ(HRⅠ)			
27	54	6/3～6/24	4. レジン前装冠Ⅱ(HRⅡ) 前歯ブリッジ			
14	28	6/26～7/3	5. メタルボンドクラウンⅠ(MBⅠ) 単冠			
12	24	7/7～7/23	6. メタルボンドクラウンⅡ(MBⅡ)メタルフレーム			
17	34	9/8～9/24	築盛			
13	26	7/13～7/23	7. クラウン、コア、インレー			
5	10	4/10、5/15、 6/3・17、7/3	8. 歯型彫刻			
12	24	9/1～9/3	9. 研修旅行			
135	270					

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	1. 模型製作				
実習目的 到達目標	前期、後期で使用する作業用模型の製作				
指導上の 留意点	別紙、製作表に照らし合わせ、注意事項を説明 模型の厚み、ボクシング方法、番号の記入 トリマー1台は予約制				
学校準備品 使用材料	ユニティ咬合器(学校貸出し) 製作表、実習帳配布、トリマー予定表				
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
6	12	4/8、4/10		作業用模型製作→各実習帳に検印	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	2. プロビジョナルクラウン				
実習目的	レポートあり(プロビジョナルレストレーションの目的と要件について)				
到達目標	既成レジン歯、常温重合レジンを用いてプロビジョナルクラウンを製作 プロビジョナルクラウンの製作方法の習得				
指導上の留意点	咬合関係・接触状態の指導 適合悪い、接触点が少ない場合は再製 プロビであるため、短時間での製作 前歯のため審美性を考慮すること				
学校準備品	ゴム枠 41T-14U				
使用材料	既成レジン歯、常温重合レジン、実習帳、(アルジネート印象材)				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ		デモ
8	16	4/27、5/8	1	作業用模型の製作	↑
			2	トリミング	4/27 ①
			3	レジン歯削合	↓
			4	ブロックアウト	4/27 ②
			5	人工歯排列・仮着	4/27 ③
			6	コア採得	↓
			7	常温重合レジン築盛の前準備	↓
			8	レジン歯のコアへの固定	↓
			9	常温重合レジン築盛	5/8 ①
			10	マージン調整	5/8 ②
			11	形態修正	5/8 ②
			12	コンタクトポイントの修正	↓説明
			13	研磨	↓説明
			14	完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	3. レジン前装冠 I (HR I)			
実習目的	レジン前装冠(単冠)の製作方法を習得			
到達目標	各部位でのフレームの違いを習得、前装レジンの築盛方法の習得			
指導上の留意点	レジン盛上げは上顎前歯のみ リングファーンネス使用上の注意			
学校準備品	ゴム枠 41T-14 UL、ソリデライト、築盛器具、スライド			
使用材料	リテンションビーズ、ソリデックス、研磨用レース			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
21	42	5/11~6/1 5/11①スライド	1 1次石膏の調整	
			2 作業用模型製作	
			3 歯型のトリミング	↑
			4 咬合器装着	前日まで
			5 歯冠外形の模刻	スライド
			6 前装部分の窓開け	5/11 ④
			7 維持装置・リムーバルノブ付与	5/13 ①
			8 鋳造・試適	
			9 中研磨	5/13 ③
			10 築盛の前準備	5/15 ①
			11 オペークの築盛・予備重合	5/15 ②
			12 サービカルの築盛・予備重合	↓
			13 ボディーの築盛・予備重合	↓
			14 インサイザルの築盛・予備重合	↓
			15 形態修正	説明
			16 仕上げ研磨	説明
			17 完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	4. 全部床義歯(FD)				
実習目的 到達目標	臨床的模型による上下顎全部床義歯(下顎法)の製作方法を習得する 平衡咬合を与える人工歯排列、削合とそれに伴う技工操作を習得する				
指導上の 留意点	下顎法による排列と削合の理論を指導する 1年次の復習として指導する 排列以降は個人差が出てくるので個々に指導する				
学校準備品 使用材料	サベイヤー、脱ろう機、重合鍋、油圧プレス、カーボランダム泥、レース F-2U. L				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ		デモ
31	62	5/7~6/19	1	模型の製作	
			2	設 計	5/7 ③
			3	平行測定	5/7 ③'
			4	添窩部填塞と緩衝	5/7 ④
			5	後提法の製作	↓
			6	咬合床の製作	5/12 ①
			7	咬合器装着(ハンディーNo.1)	↓
			8	咬合床の修正	
			9	排 列 上顎前歯	
			10	排 列 下顎前歯	
			11	排 列 下顎臼歯	
			12	排 列 上顎大1大臼歯	
			13	排 列 上顎臼歯	
			14	歯肉形成:ろう義歯の完成	
			15	ろう義歯のフラスコ埋没の前準備	
			16	ろう義歯のフラスコ埋没	
			17	流ろう・分離剤の塗布	
			18	レジン予備重合	
			19	レジン填入	
			20	レジン本重合	
			21	咬合器再装着	
			22	選択削合:咬頭嵌合位	
				選択削合:側方運動(作業側と平衡側)	
				選択削合:前方運動	
			23	自動削合	
			24	形態修正(排出路の形成)	
25	研 磨				
26	完 成				

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	5. メタルボンドクラウン I (MB I) 単冠				
実習目的	メタルボンドクラウンの製作方法を習得				
到達目標	各種形態のメタルフレームの製作、歯冠色ワックスの盛り上げ法を習得				
指導上の留意点	各フレーム(パーシャルベーク・フルベーク)の違いを指導 歯冠のワックスの盛り上げ時に、温度に注意(1のみ盛り上げ)				
学校準備品	ゴム枠 41T-7U.L				
使用材料	歯冠色ワックス				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ		デモ
14	28	6/26~7/3 6/26①スライド	1	作業用模型製作	
			2	歯型のトリミング	
			3	咬合器装着	
			4	歯冠外形の摸刻	
			5	前装部分の窓開け	6/26 ③
			6	スプルーイング、リムーバルノブ、ベントスプルー	6/26 ④
			7	鑄造・試適	
			8	メタルフレームの調整	6/29 ①
			9	オペークワックスの盛り上げ	6/29 ③
			10	デンチンワックスの盛り上げ	↓
			11	エナメルワックスの盛り上げ	↓
			完成		

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	6. メタルボンドクラウンⅡ (MBⅡ)メタルフレーム			
実習目的	メタルボンドクラウンの製作方法を習得			
到達目標	ガス-酸素混合炎での鑄造、陶材の盛り上げの習得			
指導上の留意点	ステップ8まで、夏期休暇までの課題 酸素の取扱い、フレームの厚み、ポーセレンファーネスの使用方法			
学校準備品	ゴム枠 41T-7 U.L			
使用材料	ビンテージハロー(A3)、ユニメタル、ガス-酸素混合炎			
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ	デモ
12	24	7/7~7/23	1 作業用模型製作	
			2 歯型のトリミング	
			3 咬合器装着	
			4 歯冠外形の摸刻	↑
			5 前装部分の窓開け	7/7 ③
			6 スプルーイング、リムーバルノブ ベントスプルー	↓埋没
			7 鑄造・試適	7/8 ③
			8 メタルフレームの調整・中研磨	7/9 ①

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	6. メタルボンドクラウンⅡ(MBⅡ)築盛				
実習目的	メタルボンドクラウンの製作方法を習得				
到達目標	ガス-酸素混合炎での鑄造、陶材の盛り上げの習得				
指導上の留意点	ステップ9から開始 酸素の取扱い、フレームの厚み、ポーセレンファーネスの使用方法				
学校準備品	ゴム杵 41T-7 U.L				
使用材料	ハロービンテージ(A3)、ユニメタル、ガス-酸素混合炎				
実習回数	実習時間	実習期間	実習ステップ		
17	34	9/8～9/24 9/8① DVD	9	オパーク色陶材の築盛と焼成	9/8 ①
			10	歯頸部色陶材の築盛と焼成	↓
			11	ボディー陶材の築盛	↓
			12	インサイザル陶材の築盛	↓
			13	トランスルーセント陶材の築盛と焼成	↓
			14	形態修正	↓
			15	グレージング	↓
			16	金属部分の仕上げ研磨	↓
			17	完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	7. クラウン、コア、インレー				
実習目的	コア付全部金属冠の製作、銀合金の鑄造方法の習得				
到達目標	クラウンとインレーのCADでのデザインを習得する				
指導上の留意点	コアの形態、銀合金の融解温度				
学校準備品 使用材料	ゴム枠 41T-13U,L				
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
13	26	7/13~7/23	1	作業用模型製作	
			2	歯型のトリミング	
			3	咬合器装着	
			4	コアのろう型採得	7/13 ①
			5	コア鑄造・適合	7/13 ③
			6	研磨	
			7	ろう型採得	
			8	鑄造・適合	
			9	仕上げ研磨	
			10	完成	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	8. 歯型彫刻				
実習目的 到達目標	歯型彫刻の習得				
指導上の 留意点	最初はスケッチ・模型等を参考にしながら形態を覚える。9月までは予告有り 40分で1本 →30分で1本 順々にスピードアップ				
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
5	10	4/10、5/15、 6/3・17、7/3		歯型彫刻 予告有り	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	9. オリエンテーション・研修旅行				
実習目的 到達目標	オリエンテーションや研修旅行を通じて、円滑な人間関係等を構築する				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用教材					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
12	24	9/1～9/3		研修旅行	

シラバス(実習計画)

2026年度

学 科 目	歯科技工実習		学年	2年	学期	前期
担当者	荒谷 康德 山崎 浩希		単位数	1単位	29回	(58時間)
実務経験	歯科技工所で勤務					
講義目的 到達目標	歯科技工全般にわたって反復練習により基本的な技術を習得させる					
評価方法						
使用教材	本校作成の実習帳					
使用教室	4F 技工実習室 第二教室					
実習回数	実習時間	実習期間	実習課題			
4	8	4/24、5/29 6/23、9/15	1. 歯型彫刻			
6	12	4/17、5/21 5/27、5/28	2. 就職ガイダンス 会社説明会			
6	12	5/25、5/27	3. CAD/CAM実習			
8	16	5月26日 9月18日	4. 特別講義(顎顔面補綴) 企業連携授業			
1	2	7月22日	5. コミュニケーション			
2	4	7月24日	6. 大掃除			
2	4	9月7日	7. 全国技工士学校協会模試			
29	58					

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	1. 歯型彫刻				
実習目的 到達目標	歯型彫刻の習得				
指導上の 留意点	最初はスケッチ・模型等を参考にしながら形態を覚える。9月までは予告有り 40分で1本 →30分で1本 順々にスピードアップ				
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
4	8	4/24、5/29 6/23、9/15		歯型彫刻 予告有り	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	2. 就職ガイダンス・会社説明会				
実習目的 到達目標	就職に関する知識を学ぶ				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
6	12	4/17、5/21		就職ガイダンス	
		5/27、5/28		会社説明会	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	3. CAD/CAM実習				
実習目的	歯科用CAD/CAMシステムを理解する				
到達目的	CAD/CAMシステムを用いた技工の技術を習得する				
指導上の留意点	デジタル技工の基本操作を指導する。 5つの班に分かれて実習				
学校準備品 使用材料	PC、モニター、スキャニングパウダー、(ディスク、研磨剤)				
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
6	12	5/25、5/27	1	模型製作	
			2	ワックスアップ	
			3	スキャニング	
			4	基本操作	
			5	設計・臼歯	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	4. 特別講義(顎顔面補綴)、企業連携授業				
実習目的 到達目標	外部の現役技工士や講師による講義&デモンストレーション 新商品、新機材の取扱い等、時代に即した技工を学ぶ				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
8	16	5月26日		顎顔面補綴学	
		9月18日		企業連携授業 愛歯	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	5. コミュニケーション				
実習目的 到達目標	1, 2年合同で1つの課題に取り組みコミュニケーションを図る				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
1	2	7月22日		コミュニケーション	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	6. 大掃除				
実習目的 到達目標	窓や電灯などの掃除を含めた全体掃除				
指導上の 留意点					
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
2	4	7月24日		大掃除	

シラバス(実習内容)

2026年度 前期

実習課題	7. 全国技工士学校協会模試				
実習目的	歯科技工士国家試験の模擬試験				
到達目標	各科目の合格を目指す。各自の学力の総点検				
指導上の留意点	マークシート方式				
学校準備品 使用材料					
実習回数	実習時間	実習期間		実習ステップ	デモ
2	4	9月7日		全国技工士学校協会模試	